

## 【認知症対応型共同生活介護用】

## 1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 9月 8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0570408575
法人名	社会福祉法人 大館圏域ふくし会
事業所名	グループホームかみやま
所在地	秋田県大館市花岡町字前田162番地39 (電話)0186-47-1031
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成 21年 9月 4日

## 【情報提供票より】(平成21年8月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤7人, 非常勤3人,	常勤換算7.78人

## (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	平屋	建ての	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	高熱水費550円	他実費
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	190 円	昼食	315 円
	夕食	275 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		円	

## (4) 利用者の概要(平成21年8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名	
要介護1	0	要介護2	2			
要介護3	6	要介護4	0			
要介護5	1	要支援2	0			
年齢	平均	83.8 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	たかせ内科(内科・呼吸器科・循環器科・胃腸科) 門間歯科
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員がそばに寄り添う支援、さりげなく触れることで安心感を持ってもらう支援を心がけており、利用者の些細な表情や言葉を見逃さず、今何を考え何を言おうとしているのかを常に重要視している。利用者個々の興味や希望に寄り添った柔軟な日課を組んだり、ドライブ・温泉利用・野菜づくり・唄等、個別レクリエーションを基盤にする考え方が職員に浸透している。各種書類が整備され、提供するサービスのシステムが確立されており、外部評価を真摯に受け止める姿勢が管理者・職員に感じられ、外部評価を職員のサービスの質の向上の一環として位置付けている。気づきによるアイデアと工夫がホームの随所に感じられる。毎月A3版のグループホーム新聞が発行され、毎回利用者全員の表情豊かなカラー写真が数多く掲載され、家族は新聞が手元に届くのをとても楽しみにしている。職員の対応がとても親切でやさしいと家族から評判のホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	過去4回の外部評価を受審しているが、要改善点については前向きに取り組みがなされ、全て改善されていることが確認できた。外部評価を真摯に受け止める姿勢が管理者・職員に感じられ、バックアップ施設の長も外部評価を職員のサービスの質の向上の一環として位置付けている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の項目順に職員間で時間を掛けて評価し、その後供覧・校正しホームとしての自己評価結果を取りまとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族・住民代表・市担当職員・知見を有する者(第三者委員)・バックアップ施設の長及び担当者・地域包括支援センターの参加する運営推進会議が3ヶ月に1度開催されている。行事や利用状況、外部評価結果等について活発に議論され、サービスの向上に反映されている。運営推進会議が、地域におけるグループホームの役割を確認し合う良い機会になっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族を誘い、市内の展望レストラン等を利用した食事会が実施されており、気軽に意見や要望を汲み取れるよう努力している。運営会推進議に第三者委員もメンバーとして参加している他、市福祉事務所・国民健康保険団体連合会・福祉サービス相談支援センター(運営適正化委員会)を家族に紹介していることが確認できた。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所周辺が住宅地であり、夏祭りには地域住民も参加し、特に夜の花火大会は好評である。公民館祭りに事業所の利用者が訪れたり、園児とグループホームで触れあったり、おゆうぎ会に利用者が招待されたりするなど、地域との交流が盛んである。町内会長が地域行事の情報をこまめに提供してくれている。更なる地域との交流に向け、秋には新企画「たんぼ会」を実現したいとの意気込みを確認できた。

## 2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境において家族との絆を大切に豊かな生活ができるよう支援する」との事業所独自の理念が作成されている。グループホームの基本方針(平成11年厚生労働省令第37号第156号)は、制度改正(平成18年厚生労働省令第34号第89号)により地域との関係性を重要視されるよう改められたので、「地域住民との関係性」を追加する必要がある。		地域密着型サービスとしての役割である地域住民との交流等を目指した内容を盛り込むことが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員がアイデアを出し合い、バックアップ施設の長との検討を経て作成された理念が玄関や事務室に掲げられ、毎朝の職員申し送り後に唱和されている。日々の業務の中で理念を意識し、「その人らしい生活」が送れるよう、「利用者に寄り添った支援」の実践に取り組んでいることが職員のヒアリングからも確認できた。		
<b>2.地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所周辺が住宅地であり、夏祭りには地域住民が参加してくれ、特に夜の花火大会は好評である。公民館祭りに事業所の利用者が訪れたり、園児と事業所で触れあったり、おゆぎ会に事業所の利用者が招待されたりと、地域との交流が盛んである。町内会長の理解のもと、町内会長が地域行事の情報をこまめに提供してくれている。更なる地域との交流に向け、秋には新企画「たんぼ会」を実現したいとの意気込みを確認できた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所の玄関に、外部評価結果の全てがいつでも誰でも見られるよう備え付けられている。過去4回の外部評価を受審しているが、要改善点については前向きに取り組みがなされ、全て改善されていることが確認できた。自己評価の項目順に職員間で時間を掛けて評価し、その後供覧・校正し事業所としての自己評価結果を取りまとめている。年1回の外部評価を真摯に受け止める姿勢が管理者・職員に感じられ、バックアップ施設の長も外部評価を職員のサービスの質の向上の一環として位置付けている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・住民代表・市担当職員・知見を有する者(第三者委員)・バックアップ施設の長及び担当者・地域包括支援センターの参加する運営推進会議が3ヶ月に1度開催されている。行事や利用状況、外部評価結果等について活発に議論され、サービスの向上に反映されている。運営推進会議が地域中の事業所としての役割を確認し合う良い機会になっている。		
6	9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市長寿支援課の担当職員が運営推進会議のメンバーであり、運営推進会議をとおして事業所の詳細を理解してもらっている。グループホーム新聞にも目を通してもらっており、共に事業所のサービス向上に取り組む機会を確保している。		
<b>4.理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月A3版の「グループホームかみやま新聞」を家族に郵送しており、毎回利用者全員の表情豊かなカラー写真が数多く掲載されている。新聞と一緒に利用者個々の健康状態等を手書きした内容が同封されている。家族は新聞が手元に届くのをとても楽しみにしていることが確認できた。新聞は利用者本人はもちろんのこと、町内会・保育所・公民館等の地域へも配布されており、開設以来64号を数えるに至っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付箱が設置されているが、これまでに投函はなかった。家族を誘い市内の展望レストラン等を利用したホームの食事会が実施されており、気軽に意見や要望を汲み取れるよう努力をしている。運営会推進議に第三者委員もメンバーとして参加している他、市福祉事務所・国民健康保険団体連合会・福祉サービス相談支援センター(運営適正化委員会)を家族に紹介していることが確認できた。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人単位での人事異動を実施している。開設から6年が経過したが、管理者の異動や交代はない。馴染みの職員による支援の重要性を理解しており、職員の異動についても利用者のダメージを最小限に留める配慮が伺える。異動による職員の交代時には利用者の詳細にわたる情報を確実に引き継いでいる。		
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み  運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修担当職員を配置し、4月には法人全体の新任研修を実施しているほか、年間研修計画に基づいたOJT・OFFJTが実施されている。新たな資格取得への意欲が職員ヒアリングでも確認でき、サービスに対する質の向上に対する前向きな姿勢が全体から感じられる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム合同連絡会議が3ヶ月に一度開催されており、情報交換、問題解決方法等の話し合いが行われ、サービスの質の向上に取り組んでいる。市の老人福祉関係事業所同士のネットワークが形成されており、法人として参加している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>					
<p><b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>短期利用サービスを開始しており、納得した上でサービスを利用し、事業所の雰囲気に徐々になじめるよう、空き居室を利用し入居希望の方にグループホームの雰囲気を味わっていただける配慮をしている。過去3回の実績があり、入居に結びついた方もいるとのこと。見学や問い合わせにも常時対応できる体制にある。</p>		
<p><b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b></p>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>毎回食事の盛付けを手伝ってくれる方や、職員が食材の切り方が分からない時などにアドバイスしてくれる方がいる。畑仕事についてはもっぱら利用者が職員を指導してくれている。裁縫の得意な方は、お絞りを縫ってくれたり、利用者の衣類のほころびやボタン付けを職員と一緒にしており、共に学んだり、支えあう関係作りが浸透している。</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>					
<p><b>1.一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は些細な表情や言葉を見逃さず、利用者が何を考え何を言おうとしているのかを常に把握しようとする姿勢を重要視して毎日の支援に当たっている。「寄り添う支援」に心がけており、職員がそばに寄り添う支援、さりげなく触れることで安心感を持ってもらう支援を心がけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや意見・要望を基に、担当者会議を開催し居宅介護計画を作成している。管理者が計画作成者(介護支援専門員)であり、9名の利用者個別の状況を詳細にわたり理解している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じた随時の見直しの他、居宅介護計画の設定期間に応じた見直しが行われている。長期目標及び短期目標について、ホームなりの試行錯誤を踏まえての期間設定がされているが、長期設定期間と短期設定期間の違いが明確でない。外部の者が見ても明確に理解できるような期間の設定が必要である。		長期目標と短期目標の期間設定の違いを明確にすることが期待される。
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居希望者と家族の状況を把握し、その時々々の要望に応えられるよう、短期利用サービスを開始しており、入居を希望している本人・家族にグループホームを理解してもらう機会としている。		
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの利用開始前の受診の経過、現在の受診の希望を把握して、今までのかかりつけ医や希望する医療機関による受診ができるよう支援している。通院については殆ど何らかの形で家族が協力してくれている。家族が同行できない時は、家族とよく相談して対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	いざという時のために利用者個々に緊急時対応調査を行い、本人に想定されるリスクや家族との連絡調整の方法等について確認していることが「緊急時対応調査書」にて確認できた。今のところ重度化や終末期に向けた方針は確立していないが、バックアップ施設との間で今後に向けた対応が話し合われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p align="center"><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>					
<p><b>1.その人らしい暮らしの支援</b></p>					
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>利用者個々の日常生活におけるプライバシーの確保については、ポータルトイレを使用する際の外部からの視角にわたるまで、職員の気づきを題材にし、確認を怠っていない。利用者同士の小さなトラブルについてもプライバシーの配慮をしながら対応している姿が確認できた。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>「個別レクリエーション」という視点を重要視しており、利用者個々の興味や希望に寄り添った柔軟な日課を組んでいる。ドライブ・温泉利用・寿司屋利用・野菜づくり・唄等、個別対応を基盤にした考え方が職員に浸透している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理・盛付け・配膳・片付け・食器拭き等、毎日の食事準備から後片付けに至るまで、利用者それぞれ得意な部分を担っている。各テーブルに職員も入って一緒に食事しており、和気藹々と楽しく食事している様子を確認した。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している</p>	<p>最低でも週に3回は入浴するよう働きかけている。これまで特に入浴の順番は決めていなかったが、先に入りたい方が多かったことから、利用者の茶話会の中でさりげなく話題にした結果、入浴順のサイクルを理解いただき、その後入浴順に関するトラブルがなくなった。また、好みの音楽を聴きながら入浴できるよう配慮していることも確認できた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・草取り・縫い物・洗濯・調理等、自然に役割分担がなされ、生活歴や得意分野を活かした過ごし方をしている。散策コースが自然にでき、午前と午後に散歩することが日課として定着している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敬老会・夏祭り・運動会・レクリエーション等、地域の行事には積極的に参加している。毎日の散歩にも職員が同行し、できる限り外へ出るよう心掛けている。花見や食事会等、個別レクの情報を基に皆でドライブも楽しんでいる		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	利用者の夜間の安全確保のため、施錠は概ね午後8:00から午前5:30までとしており、日中は施錠していない。鍵を掛けないケアを実現するために、玄関と非常口にチャイムを取り付け日中は利用者の行動を把握し見守りを強化している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署・地域住民の参加を得て総合避難訓練を実施している。又、月1回の自衛消防訓練も行っている。事業所は住宅地に位置しており、町内会長の理解と協力を得ながら地域住民及び近隣企業参加の災害対策を実現している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取のチェックリストを活用して来たが、より自然な形で対応できるよう、利用者個々のカップ(200~250CC)を用いることとし、10時・15時・就寝前に水分摂取を確認して、より容易に確認できる体制に改善している。また、定期的にバックアップ施設の栄養士に給食日誌を介して栄養指導を受けている。		



外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生活臭対策として利用者個々に掃除日を設け、職員と一緒に居室掃除を行っているほか、洗濯の支援を実施している。業者委託により、玄関・各居室・トイレに芳香剤が設置されている。季節感のある花を随所に飾っており、今回の訪問時はススキがさりげなく飾られていた。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>事業所側で居室に備え付けているのは、クローゼットとカーテンのみであり、他は全て利用者の持ち込みとしている。グループホームの居室というよりは、「家庭の自分の部屋で過ごしている」という印象である。</p>		

は、重点項目。